学校だより

NO 9

平成３０年１２月１９日発行

あけの

伊勢市立明野小学校
伊勢市小俣町明野 1939
校長　伊豆　　敏
電話　２４－５１７１
FAX　２４－５１７２

学校教育目標　「心身ともに健康で、個性豊かな実践力のある子どもを育てる」

～ あいさつ　そうじ　べんきょう　３つの「あそべ」をがんばろう ～

９月の運動会が終わり、１０月以降、６年生の陸上記録会、社会見学、４年生のチャリティーコンサート、文化祭、特別支援学級交流学習、学校公開デー、人権集会等、大きな学校行事や取り組みが連続し、気がつくと年末になってきました。この間、どの行事も準備の段階から予定通りに開催することができました。子どもたちも、それらの行事に真剣に取り組むことで、自分の役割を自覚することの大切さや、友達と協力して作り上げることの喜びや達成感などを経験し大きく成長してきました。また、色々な作品展などにも積極的に出品し、自分の得意な分野で良い結果を残すことができた子どももいました。そして、大きな事故もなく子どもたちが無事に過ごせたことや、学校行事が保護者や地域の皆さんのご協力のおかげで終了できたことに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

◇４年生チャリティーコンサート◇　１１月３日（土）

１１月３日午後１時から、明野小学校体育館でチャリティーコンサート「こころのハーモニー」が開催されました。明野小学校からは４年生が参加し「小さい秋見つけた」と「いつだって！」の２曲を披露してくれました。本番では、これまでの練習よりさらに素晴らしい合唱を聞かせてくれました。４年生の子どもたちの声はとてもきれいで、さらに一人ひとりが心を込めて歌っているのがわかる感動的な合唱で、来てくださった観客に心が届くような素敵な声で歌いあげてくれました。

4年チャリティーコンサート

◇文化祭◇　１１月１０日（土）

文化祭には朝早くから、保護者・地域の方には多数ご来校いただきありがとうございました。

午前中は作品展示の見学、皇學館高校吹奏楽部の素晴らしい演奏、午後からは児童会行事でチャリティーコンサートでも披露した４年生の合唱、児童会主催の楽しいレクリエーションを行いました。どの催し物も、充実していて子どもたちにとってとても楽しい文化祭になったようです。

また、食券の売り上げやバザーにもご協力いただきありがとうございました。とても充実した文化祭にすることができました。

皇學館高校吹奏楽部

◇伊勢市特別支援学級交流学習◇　１１月１５日（木）１６日（金）

１１月１５日・１６日と年に一度の特別支援学級の交流学習が伊勢青少年研修センターで行われました。この交流学習は伊勢市内の特別支援学級在籍の児童生徒が集まり１泊２日の日程で行われます。目的は小学校１年生から中学校３年生まで合同の班をで活動し、他校の子どもたちとふれ合って楽しい思い出を作ったり、様々な活動に参加し協力する態度を養ったりすることです。明野小学校からはなかよし学級の１０人が参加しました。２日とも良い天気で、各学校の出し物を発表するお楽しみ会や、ゲーム・スポーツ活動、映画鑑賞以外にもおはらい町での買い物学習や五十鈴公園での昼食など、宿泊も含め、普段の学校生活では体験できないような、楽しい交流学習でした。

特別支援交流学習

◇６年生シェフクラブによる調理実習◇　１１月１９日（月）２１日（水）２６日（月）

伊勢市教育委員会の「地域の力を活用した食育推進事業」を受けて、１１月１９日に６年A組が、２１日には６年B組が、２６日には６年C組がうましくに伊勢シェフクラブのシェフに来ていただき調理実習を行いました。A組は伊勢市宮後のブラッスリー「ドーファン・イーヴル」の薗浦シェフに「魚介のサラダ　地のミカンのドレッシング」を、B組は伊勢市本町に店を構えるビストロ「ブータントラン」の山本シェフに「極み豚バラ肉のナヴァラン」と「イチゴのムース」を、C組は伊勢市神田久志本町にお店を構えるフレンチレストラン「ルサンク」の松本シェフに「三重県産極み豚ミラノ風カツレツ」と「りんごのシュトゥルーデル」の作り方を教えていただきました。どのシェフもプロの技と楽しく丁寧な説明で調理方法や手順を子どもたちに教えてくれました。子どもたちの中には普段からお手伝いをしていて、包丁やフライパンを上手にあつかえる子どもや盛り付けの上手な子どももたくさんいて、楽しく美味しい調理実習になりました。

ドーファン・イーヴルさん

ブータントランさん

ルサンクさん

◇人権週間にあたって◇

１２月５日の学校公開デーでは１・２年生が１限目に人権集会を行い、人権標語の発表や「ごめんねともだち」の絵本の読み書かせを行いました。１年生はその後、２・３限目に伊勢保健所に来ていただき、犬の行動について学んだり心臓の音を聞いたりして「命の大切さ」について考える出前授業を行いました。３年生は１～４限目にかけて伊勢市の障がい福祉課の手話の出前教室を行いました。また、１２月６日には３・４年が、１２月７日には５・６年が人権集会を行い、それぞれ各クラスの代表による人権標語の発表と、３・４年生は「ゆうきのお守り」という子どもたちの身近な生活の中で起こり得る「いじめ」をテーマにしたビデオを、５・６年は全国中学生人権作文コンテスト入賞作品をもとに作成された「立ち止まる」というビデオを見ました。ビデオを見た後、子どもたちは同じような経験や感じたことを互いに発表し、人権について考えを深めました。また、各クラスから出された人権標語の中から各学年で選ばれた標語については後日、看板にして校舎周りのフェンスに取り付ける予定です。

【校内人権標語コンクール学年代表の人権標語】

１年代表	末藤琥太郎さん	「てをつないだら　ともだち　いっしょにあそぼう」
２年代表	佐々木　怜さん	「人げんは　かがみみたいに　うつっちゃう」
３年代表	竹内　理桜さん	「かなしみは　えがおのたねだ　すてきだね」
４年代表	田上　大翔さん	「そのえ顔　遠くにとどけ　どこまでも」
５年代表	稲垣　志優さん	「優しさで　絆の花を　咲かせよう」
６年代表	國米　一心さん	「その言葉　相手の表情　見てみよう」

童謡の作詞家として有名な「まど・みちお」さん（H26.2.28 満 104 歳没）が作った『ぞうさん』という、とても有名な歌があります。「ぞうさん ぞうさん おはながながいのね……」で始まるこの歌は、ぞうの子どもが鼻が長いと悪口を言われた時の歌で、その時にぞうの子どもはしょげたり腹を立てたりせず「一番大好きな母さんも長いんだよ。」と誇りをもって答えます。ぞうの子どもがそのように答えることができたのは、ぞうがぞうとして生かされていることがすばらしいと誇りに思っていたからです。「ありのままが素晴らしい」と教えてくれる『ぞうさん』の歌詞を理解して読めば、心がすっと軽くなる気がします。『まどさんのうた』（童話屋）という本に「目の色が違うから、肌の色が違うから、すばらしい。違うから、仲良くしようというんです。」という、まどさんの言葉も記されています。鼻が長くても短くても、背が高くても低くても、運動が得意でも不得意でも、誰でもそれぞれのよさをたくさんもっています。

また、大正時代末期から昭和時代初期にかけて活躍した「金子みすゞ」さん（S5.3.10 満 26 歳没）という童謡詩人がいます。国語の教科書にも掲載されている『わたしと小鳥とすずと』という詩は、彼女の作品の中でも特に有名です。みすゞさんの詩は、小さなもの、弱いものへの優しさが感じられるものばかりです。そして詩の最後の行を見ると「みんなちがっていい」ではなく、「みんなちがってみんないい」と書かれています。これは「わたしと小鳥とすずには、それぞれできることとできないことがある。わたしができることを相手はできない。でも、わたしができないことを相手はできる。それぞれがすばらしさをもち、お互いが結びついて世の中が成り立っているからこそ、みんなが大事な存在なのだ。」という意味が込められています。そして、「一人ひとりによさがあり、自分自身を大切にして生きていってほしい」という願いも込められていると思います。子どもたちには、そのよさをお互いに認め合って、いじめのない楽しい学校生活を送ってほしいと願っています。

『わたしと小鳥とすずと』

金子みすゞ

私が両手をひろげても
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように
地べたを速くは走れない
私がからだをゆすっても
きれいな音は出ないけれど
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ
鈴と小鳥と　それから私
みんな違って　みんないい

1年　伊勢保健所出前授業

3年　手話教室

1・2年人権集会

3・4年人権集会

5・6年人権集会

１９４８年１２月１０日、国連総会において『世界人権宣言』が採択され、この１２月１０日を『人権デー』と定められました。また、日本では１２月４日から人権デーまでの１週間を『人権週間』と定め、三重県でも毎年１１月１１日から１２月１０日までの１か月間を『差別をなくす強調月間』としています。この期間に、人権尊重の普及高揚を図るために様々な啓発活動が行われます。「思いやりの心」や「かけがえのない命」について、 ご家族でも一緒に考えたり、話し合う機会をつくったりしてみてはいかがでしょうか。

◇５年生餅つき体験◇　１２月６日（木）

１２月６日に５年生が「水土里プロジェクトおばた」の協力で餅つき体験を行いました。に子どもたちから募集した田んぼアートの原画の審査、５月に苗植え、７月に高見やぐらの設置、９月には稲刈り、１２月に餅つき体験です。子どもたちにとっては年間を通してとても貴重な体験になります。この日は「水土里プロジェクトおばた」のみなさんが、餅つきに必要な杵と臼などの道具を全て用意してくださり、体育館ロビーでもち米を蒸し、子どもたち一人ひとりに餅をつかせていただきました。ついた餅はあんこときな粉をまぶし、出来たてのお餅を美味しくいただきました。

◇増築工事について◇

明野小学校では児童数が増加しており、平成３０年度（１２月現在）は６１９人ですが、来年度は約６７０人になる予定です。以前からお知らせしていますように、児童数の増加により、これまで２教室ずつあった理科室や音楽室を１教室ずつと、図工室、視聴覚室を普通教室に改修してきました。今後もさらに普通教室が不足することが見込まれていて、残りの理科室や家庭科室を普通教室に改修し、音楽室も多目的ホールに改修し、これまで普通教室に改修してきた特別教室も含め、新たに音楽室２教室、理科室２教室、図工室、家庭科室の６教室等からなる特別教室棟を増築しています。特別教室棟については１２月５日の学校公開デーの日に２階部分のコンクリートを流し込み、今後は内装工事に入る予定です。また理科室や家庭科室、音楽室の改修は１月から開始し年度内に完成する予定です。たくさんの工事が同時に行われますが、子どもたちの学習活動への影響を最小限になるようお願いしていますのでご理解の程、よろしくお願いいたします。

◇年末年始の日本の伝統的な行事について調べよう◇

年末には各地の寺社で「すす払い」が行われ、「餅つき」も行われます。１２月３１日の「大晦日」の風物詩としては、「年越しそば」が思い浮かびます。江戸時代頃から食べられるようになったそうで、そばのように「細く長く健康に暮らせるように」とか、金箔職人が飛び散った金箔を集めるのにそば粉を使ったことから「そばはお金を集める縁起のよいもの」とかという考えがあるようです。

大晦日の夜更けにお寺で撞かれる１０８つの「除夜の鐘」は、仏教では人間には１０８つの煩悩（一切の欲望・執着や怒り・ねたみなど）があり、鐘を撞くことでこれらの煩悩をひとつひとつ取り除き、清らかな心で正月を迎えると言われています。１０８つの鐘のうち、最後の１回は年が明けてから撞きます。これは、今年一年、煩悩に惑わされないようにという意味が込められています。

そして、「お正月」。元日は、新しい年をお祝いする大事な日です。１年の始めに、その年の豊作と家族の健康を守る歳神様がやってくると考え、それを「門松」「しめ縄」「鏡餅」でお迎えします。「おせち料理」や「お雑煮」を食べたり、「初詣」に行ったりもします。「お年玉」は、歳神様に供えたお餅を子供たちに食べさせ、このことを「御歳魂（おとしだま）」と呼んだことに由来すると言われています。「凧揚げ」「百人一首」「はねつき」「福笑い」等は、伝統的なお正月の遊びです。昔から「立春の季に空に向くは養生のひとつ」と言われ、「凧揚げ」は新年の遊びとして親しまれ、その表情を見て笑い楽しむ「福笑い」は、正月から笑うことで福を招くとも言われています。

昔から伝わる行事や遊び等には、人々の幸せを願う思いが込められています。昨今、社会や生活様式、価値観等の変化、多用な日々の中で、見過ごされてしまうことも少なくはありません。外国の文化がたくさん入ってきたり、日本で新しい文化が生まれてきたりしていますが、我が国の伝統や文化をしっかりと受け止めて日本を理解することは、国際社会で活躍する日本人の育成につながります。ぜひ、冬休みには、家族での会話を通して子どもたちにこういった日本の伝統や文化にふれさせてみてください。

年末・年始は１年間の中でも最もあわただしい時期です。「冬休みの生活」のプリントをお子様と一緒に読んでいただき、交通事故などに注意して、元気でお正月をお迎えください。１月８日（火）に元気に登校してくれることを願っています。

学校は１２月２９日～１月３日の「学校閉校日」以外の平日は、職員が毎日（８：１０～１６：４０）いますので、何かありましたら学校（２４－５１７１）にご連絡ください。

◇お願い◇

これまで、家族旅行のお土産をクラスの子どもたちへいただいていたことがありましたが、食物アレルギーの心配もありますので、今後はクラスでの配布はご遠慮いただきたいと思います。あわせて、転校する際の文房具などのお心遣いも同様とさせていただきたいと思いますので、ご理解いただきますようお願いいたします。